

第2-2期の活動計画

| 重点分野 12：各学科教育の特色（放射線技術科学科） | |
|---|---|
| <p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座を開催する | |
| <p>責任者:藤野明俊（放射線技術科学科長） 分担者:武藤裕衣（学科教務担当） 事務局:教務課</p> | |
| 2019年度活動計画 | |
| 対応する中期計画項目 | 活動計画内容 |
| 1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、計画的な機器の更新・管理運用を行う。平成元年度には、X線撮影装置1台の更新とCTDI測定用ファントムの新規購入を計画している。 ・ 本学科では、全国約300施設という日本最大規模の臨床実習指導施設と連携している。学生が希望する地域での質の高い臨床実習を実現するとともに、実習期間中のトラブルを防ぐため、改善点として以下を計画する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 1.2年向けの「病院見学マニュアル」を作成し、全員対象の説明会を開催する。 ② 3年4月時に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する ③ 3年前期学内実習において、学内教員によりOSCE様の確認試験を導入する。 ④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィードバックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノート（ポートフォリオ）」を作成し、効果的な経験学習を促進する。 ⑤ 臨床実習前学内実習において、医療安全や診療放射線技師の知識向上に資する講義およびグループワークを行う。 ・ 臨床実習報告会を開催し、アクティブラーニングを実践する。 |
| 2. 学習支援と向学心の高揚 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次より担任制を導入し、個別面談体制を整えているが、成績下位者について、4月に行う面談では学科内で情報共有を行い、クラス担任のみならず教科担当教員からの学習支援を実施する。 ・ 欠席が目立つ学生に対して、授業担当教員（学科教員）と担任教員が情報共有連絡し、学生指導につなげる取り組みを継続する。 ・ 1年後期より開講される専門基礎科目・専門科目において、本学科が目指す専門資格（診療放射線技師国家試験、第一種放射線取扱主任者）の取得を意識した講義を行う。 |

| | |
|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス時に学生に「カリキュラムマップ」に成績を記録するよう指導するとともに、面談等で担任が確認を行い、学習支援を行う。 |
| <p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格率の目標値は95%、入学者あたりの合格率は75%。 ・入学者あたり合格率の目標を達成するため、特に国家試験対象科目の授業において早くから意識付けをし、学習意欲を向上させる。 ・国家試験合格率の目標を達成するために4年進級時に診療放射線技師免許を有している教員が中心となって、国家試験対策を行いその情報を共有し、思いやりある姿勢で教育指導を行う。合格率をより向上させるための改善点として以下を計画する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 成績不振者に対し、模擬試験終了後、学生自身が作成した解説書をクラス担任が確認し教育指導する。 ② 新傾向や応用問題への対応力を向上するため、年3回実施される業者模擬試験について、学生が受験するよう教育指導する。 <p>この他、合格率の目標達成に向けた以下の教育指導を継続する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学科内に国家試験対策委員会を設置し、毎月会議を開催する。 ② 4年後期、週一日、国試対策講義を開講する。 ③ 年8回、学内模擬試験を実施する（学内教員が問題作成し、試験後に対策講義を開催する）。 ④ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国家試験学習支援（個人指導）を行う。 ⑤ 模擬試験成績不振者への保護者への成績通知を行う。 ⑥ 過年度4年生に対し、特別留年支援制度を活用して、成績の振るわなかった科目の繰り返し履修と国試対策用特別補講の開設を行う。 ⑦ 過年度4年生に対して、教員居室の近くでの自習室を設定するとともに、担任は担当学生の学習進捗状況を面談またはSUMS-POにより把握する。毎月開催する国家試験対策会議にて指導状況を共有し、学習支援を促す。 ・10月以降模擬試験や9月以降国家試験対策講義（放射線科学特論）では、座席を模擬試験成績順（成績下位者から順に前方）に指定席を設定する。 |
| <p>4. 市民公開講座を開催する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・診療放射線技師の職務内容を広く多くの方に伝えるために市民公開講座を開催する。 |

第2-2期の活動計画

| 重点分野 12：各学科教育の特色（医療栄養学科・管理栄養学専攻） | |
|--|---|
| <p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療栄養学科内専攻合同演習授業の構築 2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 5. 市民公開講座の実施 | |
| <p>責任者:熊取厚志（医療栄養学科長） 分担者:太田伸生（管理栄養学専攻長）、三浦俊宏（管理栄養学専攻教務委員） 事務局:教務課</p> | |
| 2019年度活動計画 | |
| 対応する中期計画項目 | 活動計画内容 |
| 1. 臨床検査学専攻との合同演習授業の構築 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学科が管理栄養学専攻と臨床検査学専攻からなる特徴を生かし、両専攻学生の相互理解を深めて将来の医療人としての見識を広める試みを進める。管理栄養士と臨床検査技師が共に参加するチーム医療である栄養サポートチーム(NST)等を題材にして、両専攻の学生が参加した演習授業を、木曜日1限の活用等により実施する。 2. 学科内の二専攻学生の相互交流を活発にするため、様々な交歓会を企画する。 3. 学科内の両専攻学生が、相互に他の専攻の授業を聴講することを可能としたので、聴講状況の分析を行う。 |
| 2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の学年進行に応じた学習のアウトカムを確認するために、アチーブメントテストを3年生から順次導入し、その活用を図る。 2. 臨地実習の重要性に鑑みて、受け入れ施設との十分な事前協議を図るとともに、派遣学生の習熟度評価と実践的能力向上の取り組みをめざす。上記アチーブメントテストを学生の習熟度評価に反映させる方向で検討する。 3. 実習試験の導入と拡大 実習の効果をより可視化し適正な評価を行うために、実習の評価法としてレポートによるだけでなく、実習試験を実施するようになってきた。この方向性を継続拡大し、学生の自主的学習態度の涵養に務める。 4. IR室との連携を基礎にして、学生の教育および生活の問題点を解析し、その解決を図るための検討資料とする。 5. “教育の質保証委員会”を設置して教員がシラバスに沿った教育を進めていることを評価確認し、必要に応じて助言する体制確立をめざす。 |

| | |
|---|---|
| | <p>6. 学科内に教務委員会を立ち上げているので、問題点を両専攻の枠を超えて協議する体制をより充実させる。</p> |
| <p>3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p> | <p>1. 学生の将来のキャリアプランニング充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招き、モチベーション向上につながるような授業形式の懇話会／セミナーを計画する。</p> <p>2. 早期導入教育の充実 1年生底力教育を利用して、管理栄養学専攻の立案に基づいて病院や福祉施設での管理栄養士の仕事を見学する機会を設け、早期の段階から学生の向学心高揚を目指す。</p> <p>3. リメディアル教育の実効性向上 受験者数減少が進み、入学者の学力レベル低下が懸念されるためリメディアル教育の充実は喫緊の課題である。対象となる学生にリメディアル教育への参加を促し、成果としての学修到達度を担任教員が把握してモチベーション向上をはかるように指導する。</p> <p>4. グループワークやアクティブラーニングなどをカリキュラムに導入して、学生が相互に学習することで向学心高揚につながるような機会を作る。</p> <p>5. 国家試験対策学習支援の充実 国家試験対策の柱となる模擬試験の結果を常時モニターし、模擬試験では終了後直ちに振り返り学習の時間をとることにより、学生が自ら集中すべき学習項目の確認できるようにする。また、成績不振者には集中して補講や個別指導、及び保護者を交えた面談などを行い、従来から進めてきた学生個々に応じた指導を継続する。</p> |
| <p>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> | <p>1. 管理栄養士国家試験合格率の目標は100%とする。また、進路変更学生を除いて入学者あたりの合格率は90%を目標とする。</p> <p>2. カリキュラムとして4年生前期の総合演習II、及び医療栄養学特別演習で指導を行う。</p> <p>3. 3年生以下の学生も国家試験問題に接する機会が持てるようにして卒業までに求められる学習のアウトカムを具体的に意識させる。3年生にも模擬試験受験を可能にするように指導する。</p> |
| <p>5. 市民公開講座の実施</p> | <p>臨床検査学専攻と連携して、健康と栄養についての理解を広げるために市民公開講座を企画する。</p> |

第2－2期の活動計画

| 重点分野 12：各学科教育の特色（医療栄養学科・臨床検査学専攻） | |
|---|--|
| <p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 管理栄養学専攻と臨床検査学専攻の合同演習授業の構築 2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 5. 市民公開講座の開催 | |
| <p>責任者:熊取厚志（医療栄養学科長／臨床検査学専攻長） 分担者:吉子健一（臨床検査学専攻教務委員） 事務局:教務課</p> | |
| 2019年度活動計画 | |
| 対応する中期計画項目 | 活動計画内容 |
| 1. 管理栄養学専攻との合同授業の構築 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が将来の医療人としての見識を広める試みとして、管理栄養学専攻と臨床検査学専攻からなる特徴を生かし、管理栄養士と臨床検査技師が共に参加する多職種によるチーム医療である栄養サポートチーム（NST）等を題材にして、両専攻の学生と教員が合同で実施する演習授業を、木曜日1限の活用等により実施する。 2. 学科内の二専攻学生の相互交流を活発にするため、様々な交歓会を学生主導で実施する。 3. 学科内の両専攻学生が、相互に他の専攻の授業を聴講することを可能としたので、その利用状況等の検討を行う。 |
| 2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 試行的に3年生に限定し2019年度後期のアチーブメントテストを実施する。 2. 学科教務委員会にIR担当委員をおき、IR推進室との連携を深める。第2-1期に引き継ぎIR分析報告に基づき、指導方法の改革・改善に向けたIRの利用について検討を行う。 3. 2018年度より実施される検体採取業務に関する講義・実習に関して、状況をモニタリングし検討を行う。 2019年度より新たに再生医療技術学（3年次）を実施し、授業評価等で内容を評価すると共に2020年度より新たに始まる再生医療技術学実習（4年次）の実施に向けた教育内容や担当者の具体的な検討を行う。 4. 臨床検査と臨床病態との関連性に関する教育の充実。 臨床検査医学演習（R-CPCを含む）の実施方法の改善に向けて、 |

| | |
|---|---|
| | <p>引き続き授業評価を参考にして検討を行う。また、本授業で学習した内容を基に、前項の「専攻の学生と教員が合同で実施する演習授業」の一環として、臨床検査学専攻の学生が—管理栄養学専攻の学生に対し病態・検査説明を行うことにより、理解を深めさせる取り組みについて検討を行う。</p> <p>5. この秋より具体的検討に入る予定の臨床検査学教育コアカリキュラムへの対応を視野に入れ、知識、技能、接遇を柱とした臨床実習前教育体制作りの検討を開始する。</p> <p>6. 第2-1期に引き続き、学科教務委員会で従来通り関連する課題について専攻を超えて共有しながら解決を図ると共に、“教育の質保証委員会”の設置(案)に準ずる活動(IRやLSMの担当者を決めなど)の実施に向けて検討する。</p> |
| <p>3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p> | <p>1. 第2-1期における検討・準備の下、1年前期の医療人底力実践(基礎I)での病院見学に加え、OB・OGとの意見交換の場を設け臨床検査技師としての将来像をイメージさせる。</p> <p>2. 木曜日1限等を利用して、学内の教員や外部講師(各種現場で働く臨床検査技師など)による講演を中心とした、キャリアプランニング授業の構築について具体的な検討を行う。</p> <p>3. 第2-1期に引き継ぎ、1～3年の後期終了時に行っている成績不振者に対する二者ないし三者面談で、IR推進室の分析報告を活用し目的意識・学習意欲を高めると共に、学習方法の指導・支援を行う。</p> <p>4. 第2-1期に引き継ぎ、3年生後期の臨床検査医学演習の授業に三重県医学検査学会の参加を組み入れて、向学心を高める。</p> |
| <p>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> | <p>臨床検査技師国家試験の現役受験者の合格率を100%に、入学者(進路変更を除く)あたりの合格率を90%に設定し、以下の取り組みを行う。</p> <p>1. 成績不振の学生に対しては、補講や面談といった人手による手厚いケアを行い、モチベーションを含めて成績の向上を図る。また、定期試験や模試結果の詳細な分析結果に基づき、全教科に共通する効果的な教育法を構築する。</p> <p>2. 成績中位以上の学生に対しては、覚えた知識をアウトプットする訓練を行うツールとして、eラーニングシステムの構築を進める。</p> |
| <p>5. 市民公開講座の開催</p> | <p>管理栄養学専攻と連携して、健康と栄養についての理解を広げるために市民公開講座を企画する。</p> |

第2－2期の活動計画

| 重点分野 12：各学科教育の特色（リハビリテーション学科・理学療法学専攻） | |
|---|---|
| <p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催 | |
| <p>責任者: 畠中泰彦（理学療法学科長/理学療法学専攻長） 分担者: 事務局: 教務課</p> | |
| 2019年度活動計画 | |
| 対応する中期計画項目 | 活動計画内容 |
| 1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・初年次，基礎専門科目（解剖学，生理学，運動学）の到達目標を明示し，定期的に到達度をチェック，学生にフィードバックする。2020年度に向け，解剖学に続き生理学も e-learning の導入を検討する。 ドロップアウトが懸念される学生には，個別指導と同時に保護者にも通知する。 ・指定規則改定に対応するカリキュラムの準備（実習・演習方法、機材） |
| 2. 学習支援と向学心の高揚 | <ul style="list-style-type: none"> ・1，2年次に臨床見学，障がい者スポーツイベント，学会参加を通じ，将来の職域，リハビリテーションへの理解を深めさせる。同時に学生自身の将来像の具体化，動機付けを図る。特に2021年の全国障害者スポーツ大会の県内開催に合わせ，イベント参加，ボランティア活動を促進する。 ・上級生の実習見学，モデル参加を通じて，基礎医学の重要性，理学療法士の資質への理解を深めさせる。 |
| 3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格率の目標値は95%、入学者あたりの合格率は80%とする。 ・定期的な模試の実施と成績不良者に対するフィードバックにより，学生自身に国家試験合格に必要な能力と現状のギャップを認識させる。成績不良者の多くは学習計画，実行，振り返り，再計画の過程全てが不十分なため，全ての過程で助言，指導する。 |
| 4. 市民公開講座の開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献の一環として市民公開講座を開催する。 ・テーマは「ロコモティブシンドローム」、「フレイル、サルコペニア」、「介護予防、転倒予防」など、地域住民の暮らしと健康に関連したものである。 |

第2-2期の活動計画

| 重点分野 12：各学科教育の特色（リハビリテーション学科・作業療法学専攻） | |
|--|---|
| <p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育内容の充実と教育方法の充実 2. 専門職としての動機付けと向学心の高揚 3. 臨床実習のための準備と臨床実習指導者の育成 4. 市民公開講座の開催 | |
| <p>責任者： 畠中泰彦（リハビリテーション科長） 分担者： 美和千尋（作業療法学専攻長） 事務局：教務課</p> | |
| 2019年度活動計画 | |
| 対応する中期計画項目 | 活動計画内容 |
| 1. 教育内容の充実と教育方法の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・初年次の基礎専門科目（解剖学，生理学，運動学）の到達目標を明示し，年度末に到達度をチェック，学生にフィードバックする。ドロップアウトが懸念される学生は，個別指導と同時に保護者にも通知する。 ・4年間の系統だったカリキュラムと各学年での到達目標の立案を実践する。 ・オムニバス科目の「リハビリテーション概論」を専攻全体で検討して，充実させる。 |
| 2. 専門職としての動機付けと向学心の高揚 | <ul style="list-style-type: none"> ・専攻の広報ビデオ制作やオープンキャンパスに学生を参加させ，今後学ぶべき専門分野，リハビリテーションへの理解を深めさせる。これらの機会を通して教員の協力をさせることにより学生の専攻に対する帰属意識を喚起させる。 ・大学祭に専攻企画を自主的に考案させ，作業療法の啓蒙活動を行う。専攻教員とサークル活動を立ち上げ，教員との関係を構築させる。 |
| 3. 臨床実習のための準備と臨床実習指導者の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・4年間の臨床実習の手引きの作成と新指定規則に沿った臨床実習のモデルを「理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン」と作業療法臨床実習指針(2018)を参考に考案する。 ・新指定規則に沿った臨床実習指導者講習会を三重県士会と協力して開催し，臨床実習指導者を育成する。 ・学生に対して臨床実習の学習方法を検討する。 |
| 4. 市民公開講座の開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民公開講座については他団体と協力して開催もしくは講座の講師として教員を派遣する。 |

第2－2期の活動計画

| 重点分野 12：各学科教育の特色（医療福祉学科・医療福祉学専攻） | |
|--|---|
| <p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践力を備えたソーシャルワーカー養成のための教育内容の充実と教育方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催 | |
| <p>責任者:佐々木信也（医療福祉学科長／医療福祉学専攻長） 分担者: 事務局:教務課</p> | |
| 2019年度活動計画 | |
| 対応する中期計画項目 | 活動計画内容 |
| 1. 教育内容の充実と教育方法の更なる改善 | <p>ソーシャルワーカー（医療ソーシャルワーカー、精神科ソーシャルワーカー、地域包括支援センターや行政機関のソーシャルワーカー等）として活動する人材を育成するため以下のことに取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①疾患や障害を抱える当事者や当事者家族をはじめ、地域の生活困窮者や社会的に孤立している人々を支援するため、アセスメントからモニタリングに至る一連の相談援助プロセスを理解し PDCA サイクルに即して実践できるように、相談援助に関わる講義科目と演習科目の連携を強化し、知識と技術の一体化を図る。 ②地域社会とのつながりを重視し、鈴鹿市人権センター、BBS 会、日本てんかん協会三重県支部や日本パーキンソン病友の会三重県支部等の当事者会、桜の森白子ホームなどの社会福祉施設におけるボランティア活動等を通して、福祉ニーズを肌で感じ取るとともに、地域福祉計画や高齢者・障害者・児童などの各分野の福祉計画の立案および評価に参画するなどして、福祉実践の現場と学問とが融合した環境でソーシャルワークの展開が学べるようにする。 ③アセスメント力とコーディネート力を身に付けたソーシャルワーカーとしての実践力を高めるため、ロールプレイなどアクティブラーニングを可能な限り多くの授業に採り入れる。学生にとって理解しやすい授業関係資料を学生の到達度に応じて提示するなど、きめ細やかな対応を心がけていく。 ④具体的な事例の検討、ゼミ単位でのグループ学習、学外学習、社会貢献活動などより、学生の興味の幅を広げるとともに主体的な取り組みと行動力を養う。 ⑤障害学生に対する教育環境の改善に取り組み、共生社会の実現に貢献するソーシャルワーカーの養成を目指す。 |

| | |
|---|--|
| <p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p> | <p>学生間の学力の差を縮め、理解力に応じた丁寧な学習支援を目指し以下のことに取り組む。</p> <p>①国家資格の指定科目に関して、講義科目についてはテキストを用いた予習・復習を推奨するとともに、演習科目については振り返りの復習を強化する。</p> <p>②先輩や社会人で実際にソーシャルワーカーとして勤務している専門職の講義や、施設や社会福祉協議会などでの相談援助実習やフィールドワークを通して、福祉現場やソーシャルワークへの興味関心を引き出し、早い時期から対人援助職のイメージ化を図る。</p> <p>③専門職団体（社会福祉士会・精神保健福祉士協会・医療ソーシャルワーカー協会等）との関わりを深め、多様化し変化していく福祉ニーズをいち早く把握し対応していくあるべきソーシャルワーカーの姿を学べるようにする。</p> <p>④地域の貧困やネグレクト、権利侵害や虐待に対する敏感な感覚を養い、ボランティアやインフォーマルサービスなどをネットワーク化していく体験を増やす。</p> <p>⑤ICTの活用や学生との個別面談により、学習方法の相談に応じ就学上の課題解決に取り組むとともに、成績不良者については学習意欲の向上にむけて保護者との連携・調整を強化する。</p> |
| <p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> | <p>本学科卒業の第1期生から12期生までの12年間の社会福祉士国家試験の平均合格率は58.6%（全国18.8～30.6%）、精神保健福祉士は本学79.5%（全国56.9～63.3%）であり、全国的にも高水準の合格率となっている。今後もこの水準を維持するため以下のことに取り組む。</p> <p>①社会福祉士国家試験合格率の目標値を70%、精神保健福祉士合格率の目標値を90%とする。</p> <p>②入学者あたりの社会福祉士の合格者を40%、精神保健福祉士の合格者を20%とする。</p> <p>③全国レベルの模擬試験と学内での模擬試験、3年次から、年間おおむね10回実施し、その結果をデータ化し個別面談において学習成果の確認に活かす。</p> <p>④学内教員全員で国家試験対策講座を分担するとともに、東京アカデミーによる補習講座を4年次に実施する。成績の低迷している学生には、個別の学習支援を行う。</p> <p>⑤学生の到達状況について保護者へ通知し、到達度が低く学習意欲の乏しい者には三者面談を実施するなど、保護者の協力を要請する。</p> <p>⑥学生の自主的な国家試験の過去問題への取り組みを促すとともに、日頃から指定科目の授業をしっかりと学習し幅広い知識の獲得に務めるように絶えず呼びかけていく。</p> |
| <p>4. 市民公開講座の開催</p> | <p>①学科（医療福祉学専攻）が主催する市民公開講座に多数の学生の出席を促すとともに、現場ソーシャルワーカー、地域住民を招待し、学内外の交流の場とする。なお、公開講座の講師には、身体障害者、知的障害者、精神障害者、高齢者、児童、引きこもり、不登校など、いわゆる「社会的弱者」を支援する支援者を招くよう計画立案する。</p> |

第2-2期の活動計画

| 重点分野 12：各学科教育の特色（医療福祉学科・臨床心理学専攻） | |
|---|---|
| <p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部教育と大学院教育の連携による学部教育の魅力づくり 2. 大学院教育及びこころの相談センターの地域貢献を充実させる 3. 市民公開講座の開催 | |
| <p>責任者：佐々木信也（医療福祉学科長） 分担者：今井皖弍（臨床心理学専攻長） 事務局：教務課</p> | |
| 2019年度活動計画 | |
| 対応する中期計画項目 | 活動計画内容 |
| 1. 学部教育と大学院教育の連携による学部教育の魅力づくり。 | <p>○公認心理師・臨床心理士養成を主とした本専攻では、大学院生に、大学院修了時における大学院生の姿が明確になってきました。それには、臨床実践に適った援助姿勢と技法を身につけることと、そのバックボーンとなる様々な理論を学ぶことです。そして、このことこそが、臨床心理学専攻の特色であり、魅力づくりに繋がります。</p> <p>まず学部段階では、当事者の生物・心理・社会的視点から理解するための理論を学び、学部段階で身につけるべき実践能力を身につける必要があります。</p> <p>以上の方針を、これまで以上に教員間の意思統一を計り、公認心理師試験を意識した講義を行うと共に、教員各自が担当する科目内容を実践に則したものにしていきます。</p> <p>○公認心理師国家試験において出題される問題のうち、学部段階で学ぶ概論的知識問題は心理学辞典及び臨床心理学辞典に掲載されている用語を選択肢から選ぶような問題なので、予備校における模擬試験用問題を解くことで解答率を上げることが可能です。実践重視の本専攻ではこの訓練を授業中に行うことはせず、その補完の為に、大学院生、学部生による縦の勉強会であるサイコロクラブを発足させました。今年度は、秋の大学院入試終了後卒業論文を書き上げる頃に、本学大学院進学生を中心に公認心理師国家試験勉強会を発足させて、来年3月までに学部段階での解答率を引き上げます。</p> |
| 2. 大学院教育及びこころの相談センターの地域貢献を充実させる | <p>○大学院修了時における大学院生の姿が明確になってきました。</p> <p>現在、大学院修士2年生はこころの相談センターにおける1年間の実践の学びにより、実践力の力が向上し、指導教員のスーパービジョンのもとで、各自でクライアントを担当し、カウンセリンを実施し始めています。すでに各院生は4事例から5事例を担当しています。修士課程修了時には、専門職員として勤務する外部専門相談機関において、十分に実践可能な能力を養うことが重要な目標になります、教員は彼らの実践力をますます向上させるためのスーパービジョンを行うこととなります。</p> <p>○このことは、地域連携・貢献という本学こころの相談センターが重要な役割をこれまで以上に果たすことが可能になっているとも言えますし、実際</p> |

| | |
|---------------------|---|
| | <p>に鈴鹿市を中心とする地域からの評価も高まっており、来談者からの紹介による相談依頼件数が増大しています。この好評価を持続させるための地道な活動を続けます。</p> <p>○大学院修士2年生は修士論文を書き上げる年度になりました。臨床心理学分野における修士論文は実践事例論文です。修士2年で修了予定の全ての院生が無事修士論文を書き上げて、本学大学院の主目的である公認心理師および臨床心理士受験に合格するための準備を行えるように指導します。</p> <p>○公認心理師・臨床心理士資格受験については、2020年1月から準備会を発足させて、サイコロクラブとして学部専攻生を巻き込んだ勉強会を運営させます。</p> |
| <p>3. 市民公開講座の開催</p> | <p>臨床心理学分野教員による、臨床心理実践の知見を基にした公開講座は、鈴鹿市教育委員会のみならず、心の問題を抱える一般家庭の方々からも期待されており、毎年開催してきました。2019年度も9月に公開講座開催を予定しています。</p> <p>また、昨年度すでに、本学こころの相談センターに来られている不登校生徒の御両親だけでなく、小・中・高の先生方やスクールカウンセラーのみに相談されているご両親も参加可能な“不登校親支援の会(3か月6回開催)”を開催し、好評価を得ましたので、2019年度も10月から同様の形式で開催する予定です。</p> |

第2-2期の活動計画

| 重点分野 12：各学科教育の特色（鍼灸サイエンス学科） | |
|---|---|
| <p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催 | |
| <p>責任者:山本晃久（鍼灸サイエンス学科長） 分担者:高木久代、西村 甲、浦田 繁、廖 世新、鈴木 聡、本田達朗、水野海騰、張 文平、長岡伸征、高木 健、瀧本 未来 事務局:教務課</p> | |
| 2019年度活動計画 | |
| 対応する中期計画項目 | 活動計画内容 |
| 1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善 | <ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育の充実 ①キャリア教育講演を年1回開催する。 2 臨床実習の量の拡充と質の向上のため、下記見学実習を実施。 ①桜の森白子ホーム。 ②三重大学医学部附属病院麻酔科（統合医療・鍼灸外来）。 3 鍼灸スポーツトレーナー学専攻における教育内容の充実 ①スポーツトレーナー学および資格試験の知識と技術をアウトプットするフィールドワークを実施する。施設および実施内容を検討。 |
| 2. 学習支援と向学心の高揚 | <ol style="list-style-type: none"> 1 個人面談 担任による反復した面談を実施し、常に学習状態、生活状況などの情報を収集しながら学生とのコミュニケーションを欠かさないようにする。成績不良者に対する学習改善だけでなく、自主性や向上心を持てるように手厚い指導を継続する。 2 意欲向上・交流促進のため、レクリエーションを企画 球技大会、取穴大会（ツボの位置や暗唱を競い合う）を実施。 |
| 3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 | <ol style="list-style-type: none"> 1 目標 合格率 100% 入学者あたりの合格率 90%を目標とする。 2 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。 ①1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。 ②関連科目の期末試験は、国試過去問題とオリジナル問題で評価 |

| | |
|------------------|--|
| | <p>する。</p> <p>③対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。</p> <p>④成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。</p> <p>⑤モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に個別面談を行い、学生を叱咤激励しながら国家試験まで一緒に取り組んでいく。</p> |
| <p>4. 市民公開講座</p> | <p>第12回鍼灸サイエンス学科 市民公開講座を下記内容で開催する。 令和元年6月29日(土) 10:00~15:00</p> <p>① 講演Ⅰ「膝の痛みを防ぐ!」 長岡伸征 ② 講演Ⅱ「健美和膳弁当の解説」 高木久代 ③ 「健康相談」 学科教員 ④体質チェックと体質にあわせた薬膳茶コーナー</p> |

第2－2期の活動計画

| 重点分野 12：各学科教育の特色（臨床工学科） | |
|--|--|
| <p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生および社会の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の実施 5. 学生確保の取り組み | |
| <p>責任者:野原敦（臨床工学科長） 分担者: 事務局:教務課</p> | |
| 2019年度活動計画 | |
| 対応する中期計画項目 | 活動計画内容 |
| 1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善 | <ol style="list-style-type: none"> ①大学新入時にEarly exposureを行い、初年次教育の充実を図る。 ②臨床工学科教育の質保証委員会を発足し、カリキュラム等について検討する。 ③4年前期・後期に開講される学科全教員による国家試験対策としての特別演習科目の充実を図る。 ④演習・実習科目においてルーブリックを評価尺度として用い、総合評価に反映させる。 ⑤新学修サポートシステムの教員活用を進める。 |
| 2. 学習支援と向学心の高揚 | <ol style="list-style-type: none"> ①GPAに基づき学習指導計画を図ると共に GPA 上位学生の進路を含めた早期活動の促進を図る。 ②自治体が行う健康イベント等への参加・協力を促す。 ③学生へのボランティア活動情報を提供し、自治体が行うイベントへ参加（展示等）する。 ④欠席の多い学生に対して、担任から早期に連絡を取り状況を把握する。 ⑤大学祭における学科発表の支援強化を行う。 |
| 3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 | <ol style="list-style-type: none"> ①新卒学生の 100%合格を目指し、入学者あたりの合格率の目標設定として 90%を目指す。 ②合格ラインへの到達に向け、GPA 及び模擬試験によるクラス別編成を行い、前期より、自習の義務付け並びに国家試験対策補講出席を促す。 |

| | |
|---------------------|---|
| | <p>③国試頻出問題のポイントを指導、必須基本問題を繰り返し行う。</p> <p>④各クラス別学生の進度に対応した国試対策や学修サポートを行う。</p> <p>⑤各教員が国家試験の専門分野に精通し、国試全体も把握している。</p> <p>⑥国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。</p> <p>⑦国家試験全国统一模擬試験の3年次からの受験を促し、早期より国家試験への意識を高める。</p> |
| <p>4. 市民公開講座の実施</p> | <p>①題名「ホネを解剖する」 講演：医用工学部臨床工学科教授 那須史男先生</p> |
| <p>5. 学生確保の取り組み</p> | <p>①オープンキャンパスでの在校生の参加をすすめ、本学臨床工学科パンフレットの配布及び臨床工学技士業務についてのDVDや頒布品の配布を行う。</p> <p>②高校への出張授業や大学紹介イベントへの参加をすすめる。</p> <p>③臨床工学技士紹介イベントへの大学学科紹介ブースでの参加をすすめる。</p> <p>④3年次より就職ガイダンスや各種対策講座への参加を促し就職活動を進める。</p> |

第2－2期の活動計画

| 重点分野 12：各学科教育の特色（医用情報工学科） | |
|--|---|
| <p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <p>1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善 2. 学習支援と向学心の高揚 3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催</p> | |
| <p>責任者:山本皓二（医用情報工学科長） 分担者: 事務局:教務課</p> | |
| 2019年度活動計画 | |
| 対応する中期計画項目 | 活動計画内容 |
| 1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善 | <p>①2018年度に引き続き、2019年度においても卒業生などの外部講師による講演、上位学年による各種の成果発表会への下位学年の参加など、自分の将来についての具体像を学生に気付かせる機会をさらに充実させる。</p> <p>②アクティブラーニング形式の授業をすることが難しい知識中心の授業においても、学生自らが考えたり討議したりする機会を増やすことでより深い理解が得られるように改善する。</p> |
| 2. 学習支援と向学心の高揚 | <p>①2018年度に引き続き、2019年度においても進路を考える上で必要となる自身の適性や能力に関する学生自らの気付きを助ける情報をラダーチャートに図示して学生に提示し、その内容を踏まえながら、個々の学生に自身の目標とその目標に対する行動計画を立てさせる。</p> <p>②2018年度は、その後のフォローアップが出来ていなかったの で、2019年度は、3年次にその後の経過について反省会を企画する。</p> |
| 3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 | <p>①資格を取得することに積極的でない学生のために、資格を取得することの意義を話す機会を増やす。</p> <p>②学科内で、各科目の講義内容とその目的について議論し、特に資格試験対策科目については通常の科目とは異なる教育方法を取らなければならないことについて担当教員間で意識統一を図る。</p> <p>③2018年度に引き続き、徹底した少人数教育により合格率の向上に努める。</p> |
| 4. 市民公開講座の開催 | <p>AIが医療に及ぼす影響など、「医療と情報」という観点で適切なテーマを設定し、市民向け公開講座を定期的で開催する。</p> |

第2-2期の活動計画

| 重点分野 12：各学科教育の特色（薬学科） | |
|---|--|
| <p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善と国試合格率の改善 2. 学生支援体制を強化する 3. 研究活動に関する中期目標を定め、特色をもつ研究を進める 4. 市民公開講座を開講し、社会貢献をおこなう | |
| <p>責任者:佐藤英介（薬学科長） 分担者:山本秀孝（学生部委員会）、飯田靖彦（教務部委員会）、田口博明（国試委員会） 事務局:教務課</p> | |
| 2019年度活動計画 | |
| 対応する中期計画項目 | 活動計画内容 |
| 1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善と国試合格率の改善 | <p>低学年から高学年までの学部学生に対する教育体制を充実することにより、個々の学生の学力を向上させ、薬剤師国家試験の高い合格率を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の充実のため、薬学教育センターを設置し、必要な教員の配置を行い、リメディアル教育の実施や成績不振学生への支援を強化して、薬剤師国家試験合格へとつなげる。 ・教務部委員会において現行カリキュラムを見直して、改善する。 ・薬剤師国家試験の合格基準点が見直され、合格点変動することから、目標合格率等を数値として示すのは困難である。従って、対受験者合格率は全国私大平均を超えること、対入学者合格率はそれに近づくことを目標とする。 |
| 2. 学生支援体制を強化する | <p>学習活動支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新設する薬学教育センターによる、留年生、学業成績不振学生、卒業延期学生への支援強化を行う。 ・リメディアル教育の実施：新入学生に対する、入学時確認試験成績不振科目（化学、生物）についてリメディアル教育を学科独自で行う ・学習環境の整備：自習室の開放とオフィスアワーの設定を推進する。 <p>学生の学習意欲向上への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションの充実：新入生、在校生オリエンテーションを行う。 ・担任制度の充実：担任面談を定期的に行う。また、担任を介した学生および保護者からの意見集約を行う。 ・学生主体によるイベント開催への支援を行う。 |

| | |
|---------------------------------------|--|
| | <p>学生生活支援を拡充させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康支援（定期健康診断）、経済的支援（奨学金の紹介）、生活環境の整備（学生生活調査を実施）を行う。 <p>就職支援活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターシップの紹介、就職ガイダンス、企業説明会などを開催し、就職支援を行う。 |
| <p>3. 研究活動に関する中期目標を定め、特色をもつ研究を進める</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業に継続的に申請し、選定された先進的な研究課題に積極的に取り組み、その成果を社会に還元するサイクルを有効に機能させる。 ・大学ホームページ、フェイスブックに研究に関する情報発信をし、さらに三重県の企業との連携構築を行い、より多くの外部資金が獲得できるようにする。 |
| <p>4. 市民公開講座を開講し、社会貢献をおこなう</p> | <p>市民公開講座を年数回開催し、身近な「健康」や「身体」をキーワードに、薬学・医学に関する知識や情報を広く一般の方々に提供することにより社会貢献を行う。</p> |

第2－2期の活動計画

| 重点分野 12：各学科教育の特色（看護学科） | |
|---|---|
| <p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 2020年度入学定員 100名および新カリキュラム導入のための準備をするとともに、教育内容の充実と教育方法等の改善をはかる。 将来の専門職者としての向学心を育成する。 看護師・保健師国家試験合格率の向上とその達成に向けた教育指導の充実をはかる。 地域の人々が自分らしく生活することを目指して、市民公開講座を開催する。 | |
| <p>責任者:杉本陽子（看護学科長） 分担者:國分真佐代（教務委員長）、郷良淳子（学生委員長） 事務局:教務課</p> | |
| 2019年度活動計画 | |
| 対応する中期計画項目 | 活動計画内容 |
| 1. 2020年度入学定員 100名および新カリキュラム導入のための準備をするとともに、教育内容の充実と教育方法等の改善をはかる。 | <p>①2020年度入学定員 100名になるに当たり、三重県を網羅した臨地実習が適切に実施できる施設等を確保するための準備をするとともに、臨地実習を通して地域性や文化的背景、個人の価値観をふまえた看護実践力を育成する。</p> <p>◆2020年度1年次看護体験実習が適切に実習できる施設等を確保する。2021年度2年次基礎看護学実習についても実習施設の準備をする。</p> <p>◆1年次看護体験実習、2年次基礎看護学実習、3・4年次各看護学臨地実習、4年次統合実習について、病院・施設関係者と連携し、実習目的・目標に照らし合わせた実習を行い、看護実践力を育成する。</p> <p>②これまでの教育の課題を踏まえて改正した新カリキュラムのすみやかな運用に向けて準備をする。</p> <p>◆2020年度入学生適用の新カリキュラムについて、進級基準、新旧科目の読み替えや履修登録単位数の上限について検討する。</p> <p>③入学定員変更に伴う教育環境の整備を行う。</p> <p>◆2020年度入学定員 100名になるに当たり、講義室・実習室等の施設・設備や物品の整備を行う。</p> |
| 2. 将来の専門職者としての向学心を育成する。 | <p>①1年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍する看護職者と接する機会をつくり、将来のビジョンを描く手がかりとする。</p> <p>◆2019年度医療人底力実践基礎Ⅰ学科プログラムにおいて企画する。</p> <p>②初期教育の一環として接遇教育を取り入れ、専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。</p> <p>◆臨地実習直前のマナー講座を1-3年生対象に実施し、学生の看護に対するモチベーションを高め、実習施設での看護師からの学生の評価を補完する効果を期待する。</p> <p>③在校生がクラスを超えて交流する機会や卒業生との交流の機会を持ち、クラスや先輩・後輩の一体感・連帯感を育むとともに、4年間</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>の学修について予測性をもって進めることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2019年度医療人底力実践基礎Ⅰ学科プログラムにおいて、1年次と4年次・卒業生が交流する企画を実施する。 ◆2019年度後期ガイダンス終了後に「3・4年生臨地実習等情報交換会」を企画し、3年生と4年生が交流する機会をつくる。その際、1・2年生にも参加を呼び掛ける。 |
| <p>3. 看護師・保健師国家試験合格率の向上とその達成に向けた教育指導の充実をはかる。</p> | <p>①1年次から4年次まで、各学年の学修内容にあわせた国家試験対策を計画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2019年度1年生は7回の解剖生理学の学修会、2年生は7回の病態治療の学修会、3年生は前期16回の外部講師による解剖生理学・病態治療のセミナー、後期は実習のない週に実習グループごとに約4日の自己学習会、4年生は63回のセミナーとハイリスクグループへの22回（一部人数により2クラス編成）のセミナーを実施する。 ◆2019年度外部講師によるセミナーを1年生から段階的、系統的に実施し、低学年からの系統的な知識の修得と学修の促進を図るとともに、成績不振者への対応を低学年から行う。 ◆4年次模試の結果から、確実に国家試験に合格できる水準に達成できるよう、11月初め～1月末まで少人数のハイリスクグループへの学修支援を強化する。保健師国家試験対策として、16回のセミナーを実施する。 <p>②国家試験対策を充実したものとするための予算を確保するとともに、保健師国家試験対策の強化を図り、合格率を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2019年度外部講師予算を確保し、国家試験対策を充実させる。 ◆2019年度保健師国家試験模試を段階的・定期的実施し、出題の50%を占める保健統計、疫学、関係法規について、外部講師による集中セミナーを開講する。 <p>③学生の自己学修時間や場所の確保等について環境整備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2019年度臨地実習スケジュールをもとに自己学修時間の確保時期を明確にして学生と共有する。 ◆担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。 ◆自己学修スペースとしてゼミ室や講義室を確保し、学修環境を整える。 |
| <p>4. 地域の人々が自分らしく生活することを目指して、市民公開講座を開催する。</p> | <p>①近隣地域在住の一般市民を対象に、人間・環境・健康・看護に関するテーマで「市民公開講座」を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆専任教員からテーマを募り、人々が健康的に過ごすこと、病気にならないように予防すること、家庭で役立つ看護の技を学ぶこと、健康問題に関する悩み・心配事の相談といった内容で「市民公開講座」を企画・開催する。 |